

# 和牛肥育の1年

## 第4回 飼育と管理

### 1日2回の給餌で省力化を

嘉 寿 頼 栄

#### 1、飼料の調理

##### (1) 濃厚飼料の調理

藪や糖類または大豆粕のぼらのようなものは、これに手を加える必要はありませんが、麦類、玉蜀黍のような固い穀実類は、そのまま与えると、固いため消化されずに排泄されるものがあるので、何等かの調理を加えたほうがよいでしょう。麦類、玉蜀黍のようなものは粉碎したものが1番良好です。これらの飼料を生のままやるか、煮てやるかについては、煮る必要はないと思われませんが、澱粉質の穀実類は肥育の仕上期において煮飼いにしてやるとよく食べます。

##### (2) 粗飼料の調理

藪や乾草は2～3センチに切って与えた方が増体成績はよいようですが、最近の省力多頭化飼育の点からは自由に長いまま与えた方が手数がかからなくてよく、またそれで十分増体もするものです。特に生草等においてはそのまま与えるようにしましょう。しかし良質の粗飼料を多く食べさせるためには、切ってやった方がよく食べます。また藪は石灰藪にして与えれば栄養分が1.5から2倍に増加します。

##### (3) 根菜類の調理

根菜類はそのまま与えますと食道につまって死ぬことがありますので、薄く切って食べさせます。それには根菜切断器やルートカッターなどで細くしてやります。根菜類は生のまま与えればよいが、芋類は煮ると甘くなりますので、肥育末期にはよいようであります。甘藷では軟腐病や黒班病や芽の出た馬鈴薯を与えますと胃腸障害になりますから注意しましょう。

#### 2、飼料の調製

##### (1) 生飼いと煮飼

粗飼料を細切し、これに麦類は挽割ったり、粉碎して藪糖類や粕類と共に粗飼料に混ぜ、水か湯を加

えて攪拌して与えるのが生飼いです。粗飼料も濃厚飼料も煮て与えるのが煮飼いです。肥育牛でも慣れれば生飼いで十分牛が食べるし、燃料もいらないので、生飼いで結構です。煮飼いをやるとすれば、肥育の後半に、麦類のみを煮る半煮飼いを行なうのがよいでしょう。

##### (2) 練り飼、ドブ飼

細切した粗飼料へ数種の濃厚飼料を混ぜて与えるのが普通ですが、この場合に少量の水又は湯を加えて濃厚飼料が粗飼料によくまぶさりつくようにして与える練り飼いと、水や湯を多量に加えて茶漬けのような状態で与えるドブ飼又はザブ飼いとがあります。ドブ飼の場合には飼槽の底の水を飲む際にその中に浮んでいる濃厚飼料と一緒に吸い込み、これが第1胃へ入らないで直接第3胃へ送り込まれますし、余分の水のために消化にもよくないので、これは止めたほうがよいでしょう。飼料は練り飼にし、そして水は1日2回ないし3回適当な時刻に飲むだけ飲ませましょう。当場では濃厚飼料はごく少量の水を加え牛がこぼさないようにし、粗飼料は長いまま別に与え、水は自由に飲めるように自動給水器をつかってやっていますが、肥育成績も思ったより悪くはありません。これからの肥育はこれで十分ではないのでしょうか。

##### (3) 飼料の味

喰込みのよい牛でも、肥育の末期になれば、思うように食わなくなるもので、飼料の味をよくして与えます。味をよくするには調理法が大切で、麦類や玉蜀黍は挽割によって味がよくなり、又煮てもおいしくなります。塩の添加も確かに味をよくします。大体濃厚飼料の1%加えて混ぜるのが適当でしょう。糖蜜を加えるのも食慾増進によい方法です。大麦主体に飼いますと、肥育の後半になって大麦に飽きてきますが、これに糖蜜を1日2から2.5ポンド添加すれば、食慾が落ちないという報告があります。

### 3、飼料の給与回数と与え方

#### (1) 反芻と睡眠はどのくらいか

普通の牛で1日反芻は10数回行ないませんが、その時刻は朝から昼飼迄の間8回から10回くらい、つまり主として夜に行なわれます。昼間には専ら食い溜めておいて、夜ゆっくり反芻するわけです。なお1回の反芻において食塊を口へ戻す回数は30~40回口へ戻した食塊を咀嚼する回数は35~55回、1回の反芻に要する時間は30分前後です。結局、1日に10~15回反芻に費やすわけです。藁や草のような固い繊維の多い飼料を肉に変える力はここにあるのです。一方、牛の睡眠は、その時間が極めて短いもので、成牛で一昼夜ざっと1時間から2時間半くらいしか眠らないのです。その睡眠も多くは夜間にとるので、睡眠継続時間は至って短かくて、平均10分くらいです。つまり一寸眠っては目をさまし、そして反芻をするのです。また、起上って粗飼料や敷藁などを採食するのです。

#### (2) 飼料の給与回数と給餌時刻

飼料の給与回数は普通2~4回でしょう。長期肥育をする人の中にも1日2回でとおす人と、6回くらい与える人とがあります。1日2回でやるという人は、1度食った飼料を反芻してしまって、第1胃を空にしてから次の飼料を与えるようにした方が消化がよいというのです。朝食った飼料の大部分が第1胃の残っているところへ、やつぎ早に、次から次へと食わせようとしても、そう食べるものではないし、反芻の暇がないことになります。全くそのとおりで、省力管理の当節からそれで結構なのです。3回4回与える場合は給与間隔を平等にし、各々の間の時間をながくすることが肝要です。そのために朝飼いには人が起きると一番先に与えるようにし、夜飼いは人の就寝前に与えるという風にしたいものです。次に1日2~4回の場合の給餌時刻のまくばりの例を示すと次のとおりであります。

(イ) 2回飼付け……朝飼午前6時~7時、夕飼5~6時、その間午前11時~12時と、午前10時前後とに乾草又は青草を与えるのがよらしい。

(ロ) 3回飼付け……朝飼午前6時~7時、昼飼午後0時半~1時半、夕飼午後7時~8時。

(ハ) 4回飼付け……朝飼午前6時~7時、昼間午前11時~12時、夕飼午後4時~5時、夜飼10時前後。

#### (3) 飼料の与え方

いつの飼付時に1番多く飼料を与えるかという、それは夕飼いです。また、夕飼いは朝や昼の飼付けよりも粗飼料を多くし、殊に青草の如きものは必ず夕飼に多く与えた方がよらしい。飼料の量は大体に給飼後30~40分間くらいに食いつくすくらいの量で、しかも不足のない量であることが大切です。

### 4、水の与え方

#### (1) 牛はいくら水を飲むか

牛が1日に飲水する量は気温の高低によって摂取量が違ってきます。また、体格の大小によって飲水量に差があつて、同じ成牛の雌でも体格の小さい牛では1日に20キロ以内の水しか飲まないのに、大きい牛では30キロも40キロも飲みます。また肥育の初期に比べて、肥育が進むにつれ水は飲まなくなつてきます。

#### (2) 水はどのようにして与えるか

ザブ飼いはよくないので、練飼いするのが普通ですから、水は飼料とは別に与えることになります。普通ならば飼料を与えて30~40分間たって、飼料を食い終った頃に水を与えたらよいと思います。できたら終日牛が何時でも飲めるように設備してあれば1番よいわけです。水を別に与える場合には少くとも1日2回与えることが大切でしょう。牛に与える水の温度は15~20度くらいがよいとされています。上手な肥育家は夏は冷たい水を与え、冬には必ず温湯を飲ませるようにしています。

### 5、日常の管理

#### (1) 安静が第一

過激な運動をしたり、仕事をさせると、摂取した養分がこれらのエネルギー源として燃焼してしまつて、体へ貯えられません。従つて、いくら食わせても余り太りません。だから肥育牛はいつでも静かに牛舎の中へ臥かせておくことが大切です。

#### (2) 牛舎を気持よく

牛を安静に保つには舎内を気持よく、そしていく

## 岡山畜産便り 1964.08

ぶん暗くし、牛がいつも気持ちよく臥ておられるようであればなりません。それには先づ第1に牛舎の構造が問題になります。夏は涼しく、冬温たかいようなのが理想的です。牛が静かに臥しておることが、肥育管理の第1なのですから、牛が外部から遮断されておることが必要で、そのために牛舎を夏期に暗くすることが望ましい。

### (3) 多少の運動は食慾増進に必要

全く運動させないでおくと、いかに丈夫な消化器の持主である和牛でも、食慾は落ちてきます。又、胃腸障害の原因にもなります。そんなわけで、肥育牛にも多少の運動は大切です。若令肥育などは最後の2ヵ月くらいを除いてはほとんど毎日30分くらいは運動をかね日光浴をさせた方が成績がよく、その他の肥育でも隔日か3日に1回30~40分くらいひき運動した方がよろしい。

### (4) 手入れ

肥育をすると垢が沢山出ます。毎日手入れをして垢や汚れを落してやることはよいことで、手入れによって血行もよくなり、皮膚病の予防や、シラミの繁殖を防ぐことになります。殊に体表にコブの出そうな牛では、その辺一帯を草履を手にはめて丹念に摩擦するとよろしい。

### (5) 蹄間を清潔に

特に肥育牛では蹄間腐爛が1番おそろしいことで、冬以外には曳き運動の際に川入れをするとよろしい。

### (6) 食慾と糞に気を付けましょう

飼付け毎に牛の食慾をよく見、またボロ出しの時に糞の形と臭気とに気をつけます。飼料の過不足や又選り食いなどによく気を付けましょう。選り食いするようだと調理方法が悪いのか、又はその牛の嫌いな飼料があるからです。それが何であるかをつきとめねばなりません。そうすればどのように牛に飼料を与えたらよいか判ります。糞はその形と、臭気、色、消化程度等を観察せねばなりません。肥育の初期は重餅糞で、肥育の後期には平餅糞程度がよろしい。流糞程度なら、飼料を減らすか、又は下痢の原因になるものを除けば直ぐ治ります。水糞、粘液便、血便等は胃腸に病気が起っているのですから、獣医師に相談する必要があります。そして糞の臭いや色に注意し、時に糞をよくこわして見て、その中に不

消化のものがあるかないかを調べることも大切です。

### (7) 牛は穏やかに扱うこと

愛をもって穏やかに扱うことは牛を太らせる秘訣ですし、粗暴な取扱いは牛を神経質にします。神経質な牛は太りが悪いのです。

## 6、肥育牛の削蹄

### (1) 肥育牛でも削蹄は是非必要

肥育牛は昼夜牛舎の中へ入れているため排泄物が蹄間に挟ままって、そうでなくても舎飼いのために柔らかくなっている蹄底や蹄間が腐爛するからです。そうすると起臥に不自由を生じ、飼料を食うにも具合が悪く、そうでなくとも重くなる体重を支え切れなくなり、体重の増加が非常に悪くなります。また体重が増し、蹄が伸びて、蹄が薄くなっていると、運動の自由を欠くのです。曳運動を時々しないと食慾が減退しますが、その曳運動の際に非常にエネルギーを消耗するので曳運動がプラスにならずマイナスになるのです。その他輸送、出荷の時や、長期肥育する場合の肥育初期の軽度の使役にも疲労しやすく、体重が減りますので削蹄は必ずした方がよいようです。削蹄は4ヵ月~6ヵ月位いの肥育ならば肥育にかかる前に、又肥育前に使役に使う場合は、少なくとも10~15日前に削蹄するのがよいでしょう。